



八尾青果物卸市場

あるが同
して認可
495名を
に発展す
税務、経
対策と指

陳列所を
用に供し

ビス商業

円)

事業資金
旋融資
金額
200
200
980
400
1,780

円)

額
1,201
5,382
2,102
3,338

額
0,900
2,455
7,953
9,329

額
8,556
7,921
9,181
4,115

替
度

額
3,216
0,840
8,696
0,515

額
8,212
1,261
4,030
8,349

年中)

取
額

1,153,893

電 灯 ・ 電 力 (昭和32年12月現在) 関西電力調査

定 額 電 灯				街 路 灯		従 量 電 灯			大 口 電 灯	
契約口数	一般灯数	ラジオ	小型機器	契約口数	灯 数	契約口数	一般灯数	小型機器	契約口数	契約KW
4,338	6,752	2,911	113	2,570	2,799	18,739	125,551	26,906	232	1,485
小口電力(低)		小口電力(高)		業 務 用		大 口 電 力		配 電 線 路		
契約口数	契約KW	契約口数	契約KW	契約口数	契約KW	契約口数	契約KW	電柱延本数	亘長 Km	
1,356	9,899	48	6,364	6	678	5	5,950	2,900	104	

ラ ジ オ ・ テ レ ビ 数 (昭和32年12月現在) NHK調査

区 分	ラ ジ オ		計	普 及 率	テ レ ビ		計
	有 料	無 料			有 料	無 料	
数 量	19,417	278	19,695	86.2%	1,878	1	1,879

ガ ス 使 用 量 (昭和32年中) 大阪ガス調査

需 用 家 数	使 用 戸 数	ガ ス プ ロ	ガ ス 使 用 量
9,232 戸	8,845 戸	291 戸	6,600,651 立方米

タ バ コ 消 費 量 (昭和33年中) 専売公社調査

品 名	朝 日	富 士	ピ ー ス	光	パ ー ル	いこい	みどり	
区 分	20 本	10 本	50 本	10 本	10 本	20 本	20 本	
個 数	3,640	6,870	20,470	2,541,100	2,592,850	3,800	507,100	
品 名	新 生	ゴ ー ル デ ン パ ッ ト	ききよう	みのり	桃 山	日 光	計	売 上 代 金
区 分	20 本	20 本	30 g	30 g	50 g	40 g	個	円
個 数	2,944,020	698,560	45,250	48,500	550	1,000	11,244,030	434,681,800

酒 類 消 費 量 単位石 (昭和32年中) 大阪国税局調査

種 別	日 本 酒					洋 酒				
	特 級	1 級	2 級	合 成 酒	焼 酎	味 り ん	本 直 し	ビ ー ル	ウ イ ス キ ー	葡 萄 酒
石 数	28	363	2,120	567	595	62	23	1,644	127	140

治安・防災

八尾警察署は明治10年堺県の警察出張所として設けられ、戦後昭和22年警察制度の改革に伴い国警中河内地区警察署、八尾町警察署、竜華町警察署、久宝寺村警察署に分轄されたが、市制施行と同時に八尾市警察署が創設され、自治体警察の役割を果たして来た。29年警察法の改正により大阪府警察に切替えられ、旧中河内警察署の管内も管轄することになった。

消防署は、従来保安警察の一部門として、単に防衛消防のみ担当していたが、23年3月消防制度に改革が行われ、警察部門から独立して防災行政を担当し、八尾町外九カ町村が一部事務組合を組織して組合消防が誕生した。その後市制の施行により、八尾市外5カ町村消防組合八尾消防署と改称したが、同年11月消防組合は解散した。翌24年2月、市内一円を管轄区域とする八尾市消防署となり現在に至っている。現在本署は市内安中にあり出張所が1カ所山本にあるが、市内道路網の整備と、消防機械の充実により消防活動にその機動力を発揮し、市民の信頼が極めて強い。

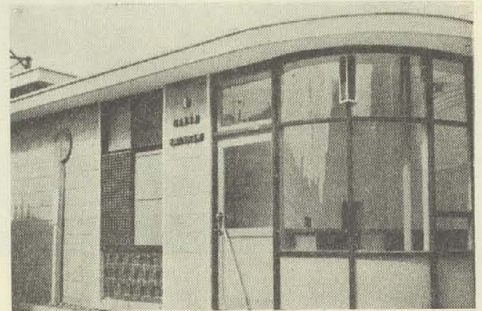
警察

巡査派出所

所名	住所	所名	住所
八尾町	八尾 434	近鉄八尾駅前	西郷 596
国鉄八尾駅前	安中 210	山本駅前	山本 218
木ノ本西	木ノ本 264	久宝寺口	三津 89

市内警ら連絡所

所名	住所	所名	住所
北山本	山本 397	西郡	西郡 1013
萱振	萱振 1172	久宝寺	久宝寺 2577
太子堂	太子堂 230	植松	植松 1264
太竹淵	竹淵 224	亀井	亀井 280
木ノ本	木ノ本 387	太田	太田 1468
恩智	恩智 300	教興寺	教興寺 299
高八尾	大竹 776	福万寺	福万寺 1481
田井	八尾木 828	服部川	服部川 250
	老原 138		



駅前派出所

消防施設及機動概数(昭和32年12月31日現在)

望楼	木署	鉄製	25.75 m
	山本	〃	15.00 m
司令車			1台
指揮車			1台
急救車			1台
ポンプ自動車			10台
消火栓			631
消防用指定井戸			77
貯水槽			12
溜池			39
地下貯水槽			10

消防機構

— 消防長兼署長 一次長 —

市長 —

— 消防団長 一副団長 —

— 総務係 —	— 係 —
— 予防係 —	— 係 —
— 消防係 —	— 係 —
— 機械係 —	— 係 —
— 本部分団 —	— 団 —
— 第1分団 —	— 分団 —
— 第2分団 —	— 分団 —
— 第3分団 —	— 分団 —
— 第4分団 —	— 分団 —
— 第5分団 —	— 分団 —
— 第6分団 —	— 分団 —
— 第7分団 —	— 分団 —
— 第8分団 —	— 分団 —
— 第9分団 —	— 分団 —

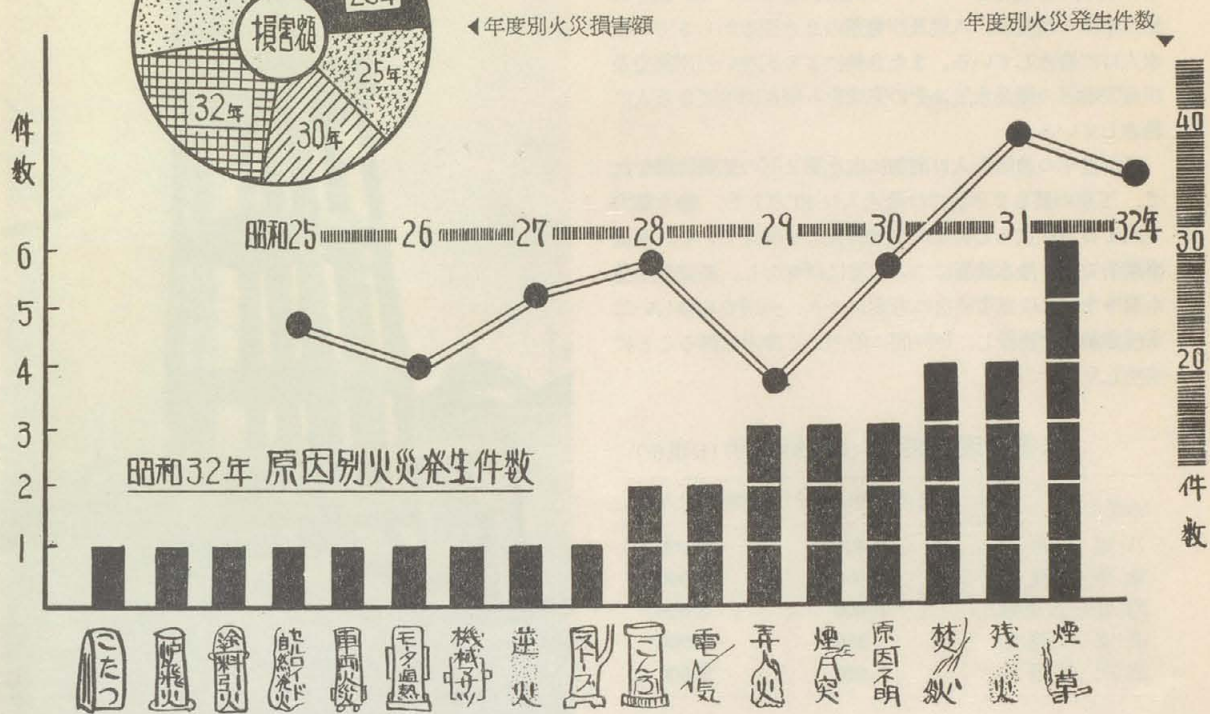
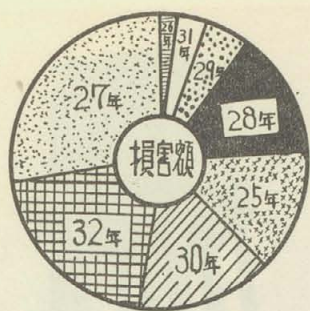
— 山本出張所 —



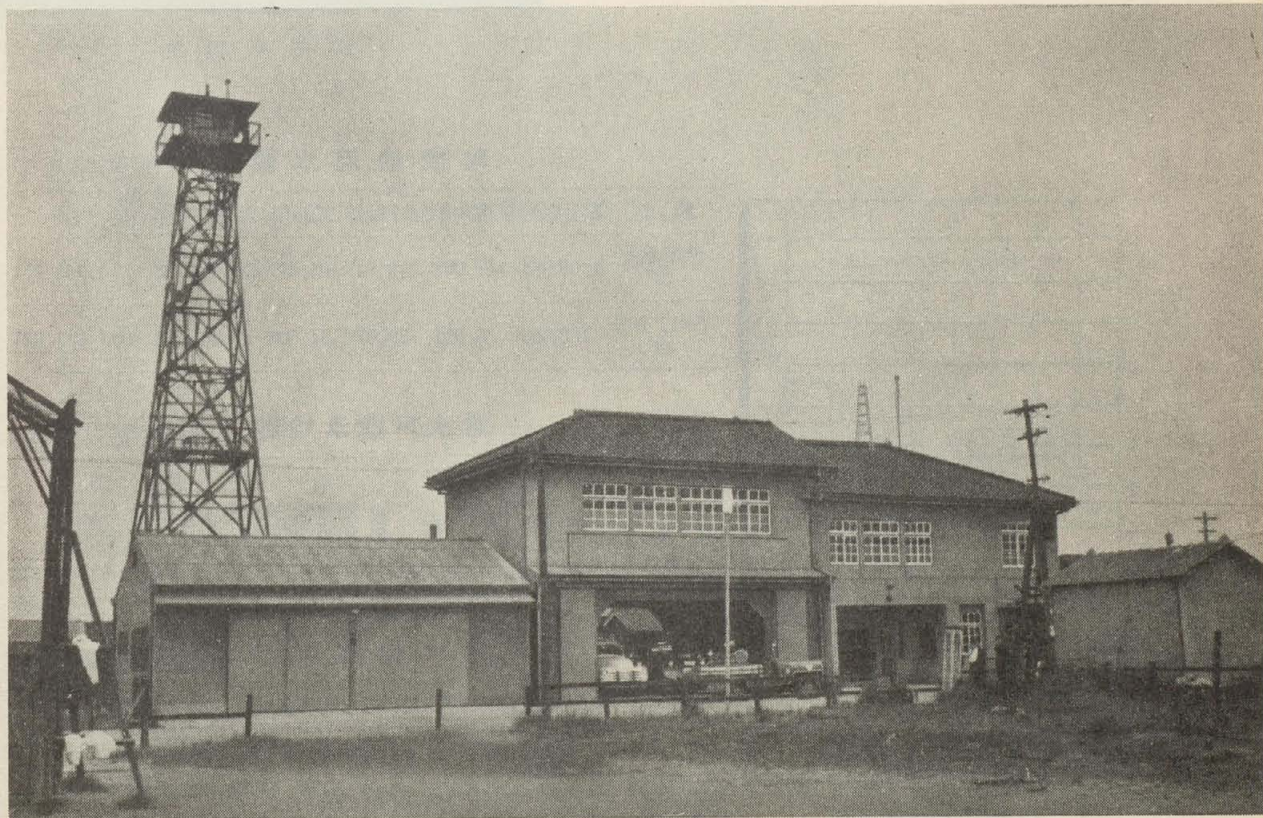
司令車

件数
6
5
4
3
2
1

火災発生状況



消防署



水道

当市の上水道事業は、31年4月1

日から地方公営企業法の規定を適用し、独立採算制を確立し、企業の合理化とサービスの向上に努めている。32年の給水事業の現況は、八尾及び竜華の2水源地从ら5万の給水人口に給水している。また合併により引継いだ南高安及び高安地区の簡易水道はその完成をみ現在両地区3万人に給水している。

また近年の急激な人口増加に応え第2回の拡張計画をたて、工事の終る2年後には給水人口10万7千、給水能力1人1日200立とし将来の工場誘致にも備えている。水道事業所では、浄水装置について常に研究をし、高安の簡易水道浄水地には当市独自の考案により、全国でも珍しい二重濾過装置を建設し、短時間に能率よく浄水し得ることに成功した。

水源の湧出能力 (昭和33年3月31日現在)

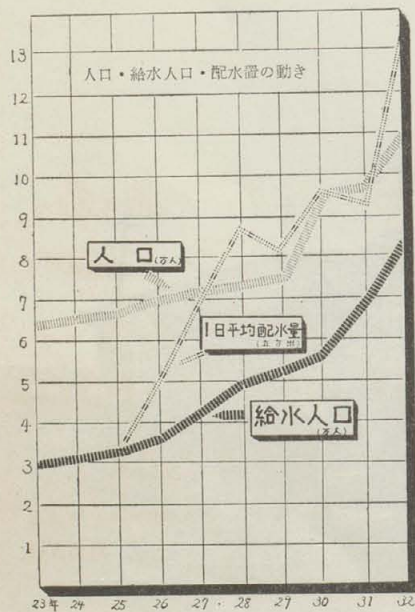
水源地区別	1日湧出能力 m ³	計画給水人口
八尾水源地区	3,400	30,000
竜華水源地区	4,050	20,000
南高安水源地区	1,000	2,800
高安水源地区	350	4,900
志紀水源地区	1,020	9,500



八尾水源地区

年間使用水量 (昭和32年度中)

種別	家事専用	家事共用	官庁団体	工業用	営業用	湯業	泉用	計
使用水量 m ³	2,198,998	111,969	240,847	408,097	479,464	303,676	3,743,051	
平均1ヵ月 m ³	183,250	9,331	20,071	34,008	39,955	25,306	311,921	



給水戸数及栓数 (昭和33年3月31日現在)

区分種別	給水戸数			給水栓数							
	専用栓	共用栓	計	家事専用	家事共用	官庁団体用	工業用	営業用	湯業	屋業用	計
現在											
昭和32年実数	17,361	12,481	18,609	16,613	312	147	131	434	36	17,673	

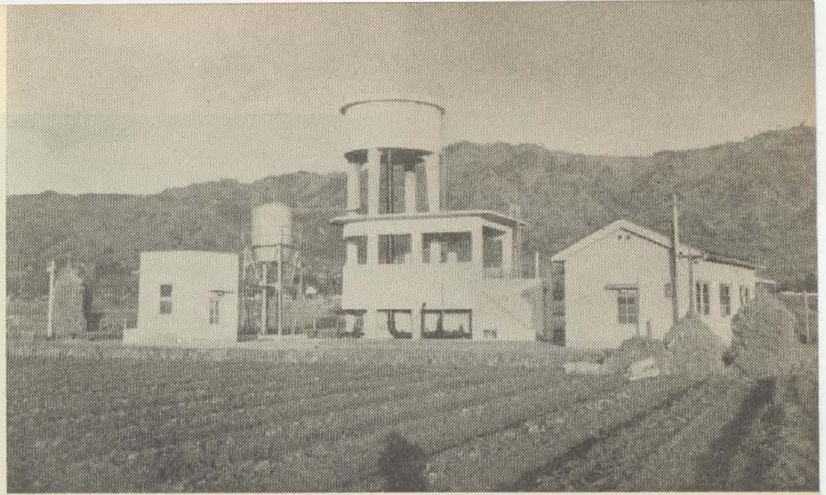
給水普及状況 (昭和33年3月31日現在)

区域内戸口数		給水戸口数		普及率%		栓別給水人口		
戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	専用栓	共用栓	計
24,563	111,400	18,609	85,600	76%	77%	77,860	5,740	85,600

二重濾過

当市水道事業所が、独自の考案により完工した二重濾過装置は、全国でも珍しいもので今までの浄水装置に比較して装置が3分の1の面積に納まり、しかも能率よく浄水を得ることができる。この装置の特色は、今までの浄水装置で大きな面積を占めていた洗でん池、気ばく室が不要であり、このため洗酸ばんどもいらす濾過の操作が非常に簡単になる。

新しく考案された二重濾過装置は、32年に完成した高安簡易水道の水源地で、操業の結果好成果を上げている。これは酸化槽と急速二重濾過池の二つからなり、井戸から吸み上げられた水は酸化槽に送られ、じょうろのような散水板で水を空気に晒し、さらにこの水に小さい気泡を送り込み、水中の鉄分の酸化を促進させる。酸化槽を出た水は1次濾過池であらごしされ、2次濾過で浄水を得る。



二重濾過装置

受水状況

(昭和33年3月31日現在)

総配水量	府より受水分			大阪市より受水分		
	量 (m ³)	金額 (円)	配水量の比%	量 (m ³)	金額 (円)	配水量の比%
4,780,799	2,903,150	21,759,380	61	107,434	1,382,044	2

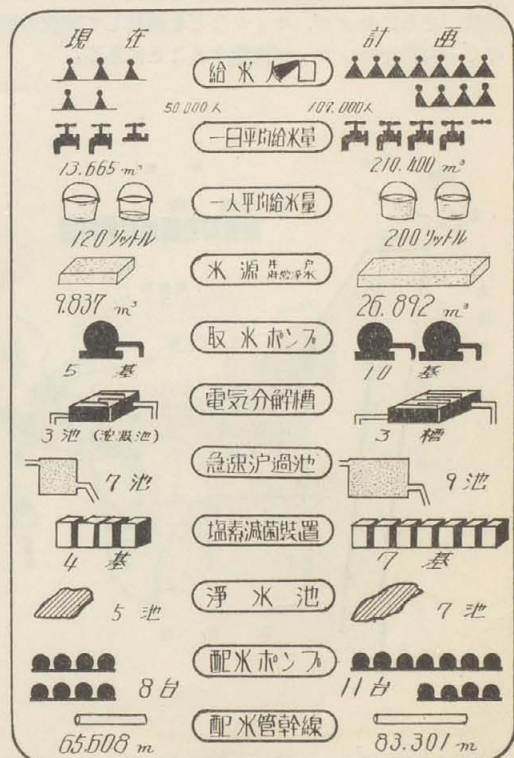


水質試験室

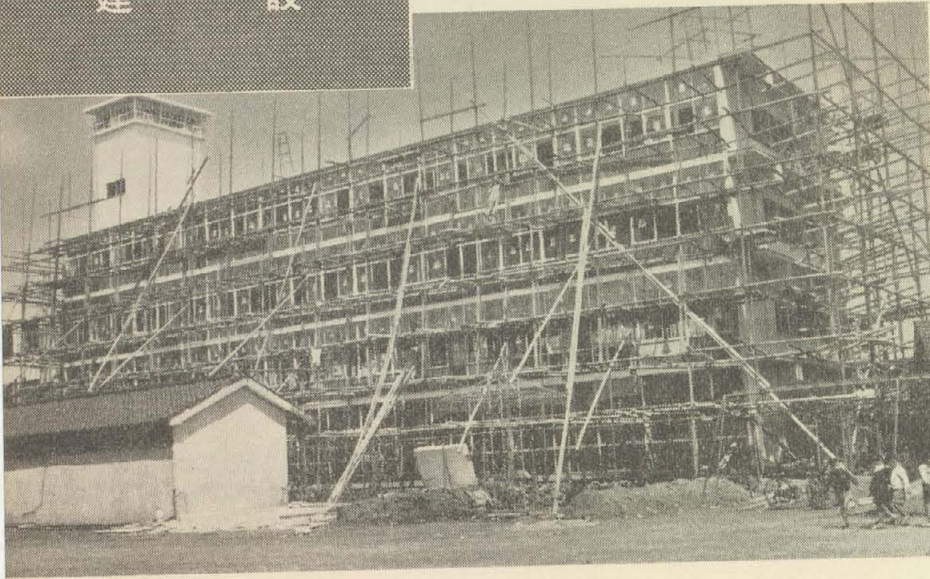
水質試験室

水道事業所では、昭和31年10月八尾水源地内に水質試験室を設け、毎月市内各水源と浄水について定期検査を行うほか、一般の水質検査、鑑定、水道事業用資材の科学的試験について受託試験を行つている。またここでは浄水過程に関する試験や調査研究をも行う。当市独自の研究により完成した二重濾過装置の研究も水質試験室での長期実験の後、実地に移されたものです。

水道事業の計画



建設



庁舎増築工事

峻しい10年の歩みの途上において着々と都市的施設の建設充実をはかり、都市計画の実績も順調なる進展を示し、近代中堅都市の形態態々備わつて更に将来への理想都市建設へとたゆまざる努力を続けている。

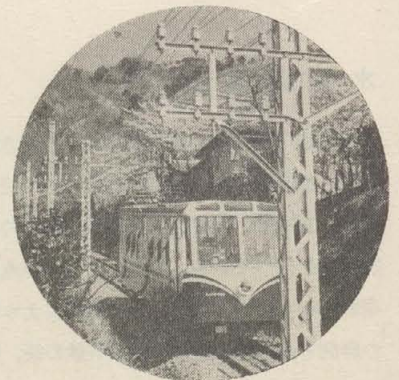
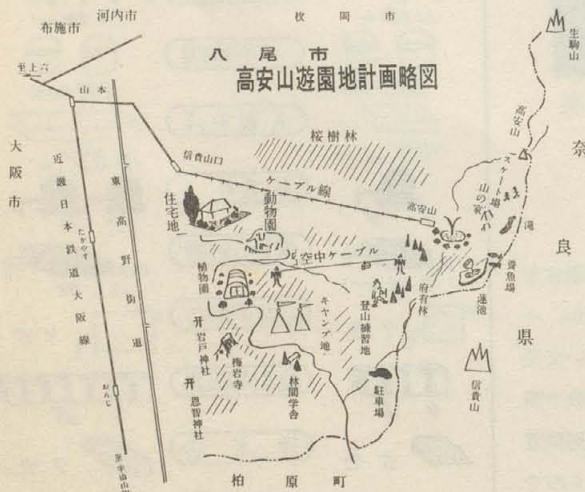
このような背景に立つて11万市民の行政サービスの中核施設である庁舎の増築整備を断行して、職場環境の改善を期し、もつて市民との接触をできる限り円滑ならしめるため、その建設工事も殆んど竣工に近づいた。

一方観光都市建設への期待も極めて大きく、その開発事業の中で最も重要

な積極施策の一つとして、この高安山開発計画がある。この計画は、今年の春「金剛・生駒国立公園」が指定される地域内である高安山山ろく一帯を開発し、ここに大規模な観光施設を設け、住宅地を造成し関西随一の規模の大きいレクリエーション・センターを建設しようとするものである。

昭和32年信貴山ケーブルの復旧によつて観光客は、一挙に10数倍に増加、将来は大観光地としての目的を達成するに十分な条件を備えている。

開発計画は総工費4億1千万円で、昭和33年度から向う5カ年にわたる計画事業として、まず第1・2年度には府道大阪平野一八尾線を延長、大阪市内から高安山山頂に通ずる観光道路として全長14,800米の道路建設を重点として進め、宅地、遊園地、植林に着手、第3年度からは観光施設の本格工事に着手することになっている。観光施設は工費8千万円を要する空中ケーブルの架設をはじめ、高安城の再建、山上展望台の建設、各種遊戯施設、動植物園、キャンプ地、バンガロー、林間学舎、ボート施設など近県にまれな観光、娯楽、休養のための大規模な諸施設の建設が行われ、第5年次昭和37年末を期して総て完成されようとしている。また同山ろく約2万坪を開発して宅地を造成、高級住宅を誘致、さらにサクラ、モミジなどを植林して完成の際には交通の利便、規模の雄大さ、設備の充実など六甲、有馬をしのぐ一大観光センターが実現することにある。



信貴山ケーブル

都市計画

当市の都市計画は昭和14年旧八尾町の時に都市計画法の適用を受け、23年4月市制施行により漸次街路網、公園緑地の計画決定をみた。26年には住家の密集地帯で水利の悪い場所に防火水槽を設置し、都市災害復旧事業も継続して各水路を整備している。30年と32年に3回にわたつて行われた町村合併により拡大した計画区域についても路線の変更並びに追加を決定した。

また金剛生駒の国定公園指定に伴い、市では5カ年計画により東高安山に公園事業を起し、東大阪のレクリエーションセンターの建設を進めている。一方住宅建設にも意を用い市で住宅協会を設立し、住宅地の開発を行い住宅公園、大阪府及び近鉄の住宅団地の誘致も進んでいる。

住宅協会

公営住宅の建設には、財政上からの限度がありこのままでは住宅問題の解決と住宅水準の向上は期待できない。市では住宅建設の一方策として昭和32年2月に「八尾市住宅協会」を設け、住宅金融公金法を活用し住宅建設資金の融資を受け、いわゆる公庫住宅の建設供給と住宅地の開発を行い都市の健全な建設を進めている。



市役所前の街路

	坪
第1次買収総面積	3,483.60
宅地面積	2,626.89
道路用地	856.71
宅地区画数	29.00
第2次買収予定総面積	4,120.00

公営住宅 (昭和32年12月31日現在)

種別	市営	府営	府住宅協会	住宅公園	計
戸数	120	1,663	128	775	2,686

鉄筋住宅地





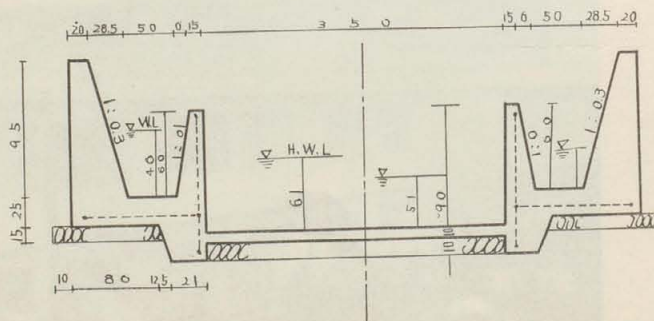
改修工事の完成した長瀬川

都市水利

市の南端を流れる大和川から分れ、柏原町、八尾、布施を経て大阪に流れる長瀬川沿岸の改修工事が、総工費2億8千万円で32年から5か年間の継続事業として進められている。この事業は全国でも珍しい都市水利事業であり、農業用水と都市廃水とを1つの河川で分水して流し、沿岸1.316町歩のかんがい用水の汚染を防ぎ、併せて一般汚水の処理も行おうのである。

この事業は長年懸案であつたもので、当市が大阪市に近く、交通の便もよく、工業用水も豊富であるため、長瀬川沿岸地は早くから住宅、工場地として開発され、長瀬川に流される一般汚水の放出量は増加の一途をたどり農業用水が著しく汚染され、農業上の毒害は勿論、流域の環境衛生にも悪い状態になつてきた。都市の発展につれ下水道事業を起し、汚水の処理を行ふのが当然であるが、これらの新規事業を実施するには莫大な経費を要するだけでなく、土地の買収など幾多の難問題が関連するため、今回長瀬川の改修工事を実施するに当り、農業用水路の護岸を共用して排水溝を併設し、経費の削減を計ると共に衛生と農業上の害悪を除去することになつたものである。

改修後の断面図



近鉄八尾駅前



市内の交通機関には、国鉄関西本線、近畿日本鉄道大阪線のほか、大阪市バス、近鉄バスがある。国鉄関西本線は市の南部を走り、八尾駅と敷地12,000坪を有する竜華操車場がある。近畿日本鉄道大阪線は市の北部を走り市内に7駅を有し、西から登る信貴山ケーブルによつて高安山へ登ることができる。バス路線は、近鉄八尾駅を中心に路線網が縦横に走り、大阪、南河内、北河内を結んでいる。道路は南部を東西に走る国道25号線を始め、府道、市道が逐次整備、拡充され、工場、住宅の誘致と相俟つて、国鉄バスの吹田―八尾間、近鉄バスの今里―八尾間、大阪市バスの乗入路線増設が近く実現される見込みである。

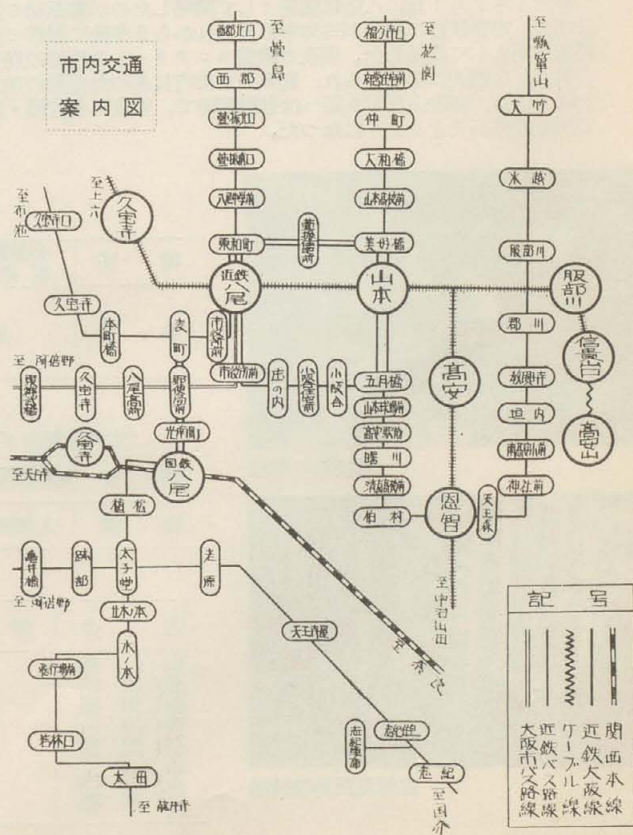
交通動態統計調査

調査地点	種別							計
	歩行者	自転車	牛馬車	乗用車	乗自動車	貨自動車	計	
①	1,365	2,254	16	109	78	101	3,923	
②	20,315	6,500	87	203	193	172	27,470	
③	1,319	2,850	89	176	37	528	4,999	
④	2,488	2,999	56	114	233	414	6,304	
⑤	255	3,250	23	175	23	795	4,521	
⑥	812	5,565	109	533	131	2,290	9,440	
⑦	336	2,398	64	166	72	929	3,965	
⑧	3,096	6,802	122	696	410	2,234	13,360	
⑨	1,980	6,501	136	761	492	3,719	13,589	
⑩	818	1,957	86	64	3	227	3,155	
⑪	419	4,174	65	752	430	2,940	8,780	
⑫	1,663	1,125	40	19	23	319	3,189	
⑬	148	1,016	2	47	22	267	1,502	
⑭	2,903	3,450	51	95	85	360	6,944	
計	37,917	50,841	946	3,910	2,232	15,295	111,141	

調査地点説明

①市道八尾西郡線と弥刀上之島線の交叉点。②常光寺前。③府道八尾高安線庄ノ内5つ辻。④郵便局前。⑤府道八尾枚方線と弥刀上之島線との交叉。⑥八尾高西側。⑦明治乳業大阪工場前。⑧国道25号線亀井橋北詰。⑨同太子堂交叉点。⑩府道八尾恩智線八尾座交叉点。⑪国道25号線天玉寺屋交叉点。⑫東高野街道恩智神社前。⑬同服部川交叉点。⑭山本神社前4つ辻。

(調査は昭和32年10月27日、午前7時から午後5時までの間実施)



市内各駅降車人員数

(昭和32年中)

駅名	区分	乗降人員	手荷		物計
			到着	発送	
国鉄 近鉄	八尾 久宝寺 山部 高志 山部 貴山 服部 信貴 計	4,586,581人	25,749個	22,912個	48,661個
		1,502,054	96	3	99
		3,806,145	1,356	1,021	2,377
		2,003,528	1,000	2,628	3,628
		852,218	105	125	230
		587,939	76	17	93
		382,367	11	9	20
		469,154	552	86	638
		14,189,986	28,945	26,801	55,746

貨物発着取扱数

昭和32年中(単位=トン)

種別	発送貨物			到着貨物		
	小口扱	車扱	計	小口扱	車扱	計
計	921	21,433	23,541	793	80,720	82,509

郵便局

明治5年7月1日に開設し、明治18年10月1日河内国若江郡寺内村に移転、その後4回にわたって局舎は移転された。この間明治30年3月26日八尾郵便局と改称、昭和12年11月11日、2等局となり24年6月1日二省分離によって郵政省として発足した。現在の局舎は28年7月20日に新築移転したもので鉄筋コンクリート2階建である。

郵便物取扱数

(昭和32年中)

区分	普通通常		書留通常		普通達速		小包	
	引受	配達	引受	配達	引受	配達	引受	配達
総別	2,537,292	3,292,000	45,234	90,564	30,4165	6,202	31,038	57,088

電報・電話局

明治5年7月1日に八尾郵便局として開局したのが電話局の前身である。同局で電信業務が行われたのは明治30年3月26日、電話通話の開始が同39年11月これから2年後に電話の交換が始められ、昭和24年6月二省分離によって八尾電報電話局として発足した。現在の鉄筋コンクリート2階建の局舎は32年2月に新築されたもので、同年6月には、市内の電話が自動式に切替えられ、従来まで市内にあつた他局の加入電話も八尾局に統轄され5級局になつた。これにより大阪、奈良、和歌山など9局へは自動即時で、東京・名古屋・探の各局へは即時通話となり、33年4月には市内の電話で国際通話ができるようになった。



郵便物の整理



電報電話局機械室

電話加入者

(昭和32年中) 八尾市取扱分

種別	公衆電話取扱局	公電	電話	衆数	電話加入者数	加入申込数
数量	10	公衆ボックス	簡易公衆	委託公衆	2,896	700
		4	21	2		

電話通話数

(市外通話中ダイヤルで即時通話できる区域は市内通話に含める)

種別	電話機数	市内通話 呼数(1ヵ月)	市内通話 (1日平均)	市外通話 呼数(1ヵ月)	市外通話 (1日平均)
数量	3,223	445,909	14,863	28,317	913

報電取扱状況

区分	年間	月平均	1日平均	
			平常日	休日
総数	98,504	8,209	273	171
国内	26,087	2,174	78	53
国際	171	14	1	0
国内	64,939	5,412	175	115
国際	222	19	1	0
国内	7,085	590	18	3
国際	0	0	0	0



文化人表彰

八尾 住人

つう
東光

八尾市も市制十周年の記念を迎えようと聞いて、僕は感無量だ。

僕は厳密にいふと昭和二十六年九月に八尾中野の天台院に特命住職として発令されたが、東京の家を片付けて移つて来たのは十一月の末だった。それから天台院の修築にとりかかつて、まだ壁も半乾きのままのところへ入つたのが、忘れもしない十二月三十日だった。あくる日、二十六年の除夜の鐘を鳴らしたのである。

尤も絶えて鳴らしたこともない半鐘を叩いたので、駐在所と消防署から真夜中に駆けつけられるといふ騒ぎの一幕があつたが、かうして二十七年の元旦を迎えたのである。

僕の任命書には河内国若江郡八尾中野村と書いてあつたが、移住して来たときには八尾市となつてゐた。そのうちに附近の町村合併で人口十万人の八尾市に発展した。

大阪をめぐる衛星都市の中で唯一一つの黒字健全財政を誇る八尾市は、下世話にもいふ金持ち喧嘩せずで、まことに平穩無事な田園都市だ。政争もなく、大事件もなく、河内人は黙々として働いてゐる。それでは彼等は底抜けの凡人かといふと、楠公以来の強力なエネルギーを内に秘めてゐる。古来、河内の兵は強勇を誇つて来た。従つて彼等は敗戦にもさまたで混乱することなく河内の美田を守つて来たのである。初代市長の勝田さんが、

何度も選挙されて地方自治のために万丈の気を吐いてゐるのも注目して好い事実だらう。僕などは四選も五選もさまたげない。何日までも継続してやつてほしいと思ふ。

僕もまた天台院を永任の棲み家としてゐるのだ。従つて本籍をも移して仕舞つた。つまり戸籍上からも僕は河内人になつたのだ。僕が天台院の和尚になつて以来、わが天台院には珍客を迎えること屢々だ。恩師谷崎潤一郎先生はじめ文壇の諸名士が踵を接して来訪される。芸能人としては市川左團次君のほかいりいな人が訪れて呉れた。河内の小庵は漸く東京でも人の知るところとなつて来たらしい。

僕が第三十六回直木賞を受けた時、市長さんから大きな鯛を贈られた。これが一番嬉しかった。東京の人に褒められるより河内の人に褒められる方が嬉しい。僕の檀家達もお祝ひしてくれた。これは親類以上のつきあひをしてゐる仲なので涙がこぼれる思ひだつた。そのうちに昨三十二年の文化の日には、文化人として表彰され記念品を贈られた。僕が文化人であるかどうかは疑問だが、八尾に僕みたいな癖のある根性曲りの坊主が居るといふことは、畢竟、八尾が住み心地が好いといふ証拠であらうか。河内平野は八尾市によつて更に発展するだらうと思ふ。八尾市の果す役割は今後益々大きな意味を持つだらうと考えてゐる。